

占用許可 中電が申請

再度ボーリング調査へ

中国電力(広島市)は7日、上関原発建設予定地(上関町)周辺の活断層の有無を調べる海上ボーリング調査について、必要な海域の占用許可を県に申請したと発表した。許可が得られ次第、速やかに調査に着手するとしている。

調査期間は、掘削に2カ月、前後の作業に1カ月の3カ月程度としている。

ボーリング調査をめぐっては当初、昨年8月に作業台船や重機の搬入などの準備作業を始める計画だったが、台風への備えて遅れた。同年11月に準備作業を始めたが、反対派住民らによる抗議行動や悪天候で進まず、12月に中断。今年4月、工程を見直したうえで再開時期が10月以降になるとの見通しを示していた。

昨年10月に県から取得した海域の占用許可は中断した時点で廃止届けを出して

(具志堅直)

上関原発 再び掘削申請

中電 抗議などで昨冬調査断念

中国電力は7日、山口県上関町に建設を計画する上関原発について、海上ボーリング調査の許可申請を県に出した。当初は昨冬に調査する予定だったが、反対派の抗議などで期間内の調査完了を断念。計画を延期し再び申請した。

海の埋め立て工事前に原発予定地の陸から西約200メートルの水深約11メートルの海底を60メートル掘削し、活断層の有無を調べる予定。県条例に基づく「一般海域の占用許可」を申請した。期間は3カ月間。許可が下り次第、作業に入りたい考えだ。

中電は昨年も同時期に申請し許可後の同年11月に掘削地点を確定させる準備作業に入った。これに対し原発反対派の漁師が連日、船で押し寄せ抗議。中電は調査に入れぬまま当初計画を断念した。今年10月以降に延期する方針を示していた。

中電上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「安心安全な発電所建設に必要な作業。許可後速やかに開始したい」としている。上関原発を建てさせない祝島島民の会代表の清水敏保町議は「県が許可しても昨年のように監視行動に乗り出す」と話す。(堀晋也)

上関原発 ボーリング調査申請

中国電力が県に来月にも着手か

中国電力(広島市)は7日、上関町を進める上関原発建設計画を巡り、建設予定地の埋め立て海域でボーリング調査をするために必要な占用許可申請書を県に提出した。審査に要する標準処理期間は33日で、11月にも着手するとみられる。

中国電力によると、調査は原発の新規制基準に基づく原子炉設置審査に備えたもので、活断層の有無を調べる。建設予定地である西方約200メートル沖、約6000平方メートルで調査を予定し、期間は約3カ月。上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「県の許可が下り次第、速やかに調査に着手できるように準備する」と話す。

中国電力は2019年10月上旬にも占用許可を申請し、許可後の11月上旬から準備作業に着手したが、建設反対派の船の停泊による抗議などで1カ月以上作業が進まず、海象条件も厳しくなったため12月中旬に中断した。今回、作業台船の確保など準備が整い、再申請した。

上関原発計画を巡っては、19年7月、県は中国電力に埋め立て免許の再延長を許可すると同時に「発電所本体の着工時期の見通しがつかまでは埋め立て工事を施行しない」と要請している。内富広報部長は「ボーリング調査はデータを拡充するためのもの。埋め立てには関係ない」と説明した。

【脇山隆俊】